

小中学校における『おくすり教育』推進のための
『薬の正しい使い方』に関する標語募集及び啓発事業

一般社団法人 日本くすり教育研究所 理事

ふくだ さなえ
福田 早苗

小中学校における『おくすり教育』推進のための 『薬の正しい使い方』に関する標語募集事業及び啓発事業

一般社団法人 日本くすり教育研究所 啓発事業等 実施者氏名 福田 早苗

【要旨】

1、啓発事業等実施目的

セルフメディケーションを推進していく上で、一般消費者の医薬品適正使用に対する認識を深めることが重要課題と認識されて久しい。この課題に対し、小平市では早期教育が大切だと考え、20年ほど前より市内の小中学校において『薬』という化学物質への認識や『医薬品の適正使用』における意識を高める『おくすり教育』に取り組み、定着させてきた。この事例をひとつのモデルとして当研究所と一般社団法人西武薬剤師会（清瀬市・小平市・西東京市・東久留米市・東村山市で構成）は、令和2年度より『おくすり教育推進協議会』を立ち上げ、小平市近隣のエリアにおいても小中学校での『おくすり教育』の推進と充実を図ってきた。しかし、その成果は思わしくなく、次のアクションプランが必要であると感じた。そこで、西武薬剤師会エリア内の全公立小中学生を対象とした『薬の正しい使い方』に関する標語募集事業を試み、さらに応募された標語を基に参加型教材とする教育内容の改変も検討したいと考えた。

2、啓発事業等実施方法および内容

『おくすり教育推進協議会』は、当初西武薬剤師会に所属している有志が日本くすり教育研究所代表理事の加藤哲太氏と湘南医療大学教授である船田正彦氏を有識者に迎え“おくすり教育推進協議会企画運営委員会”を編成し協議会の企画運営にあたってきた。活動のさらなる活性化を図るため令和4年度より西武薬剤師会学校保健委員会として活動を展開することになった。

今回の事業説明・募集の告知、入選作品の投票、及び結果発表なども、西武薬剤師会のホームページや年3回共同開催している『おくすり教育推進協議会』にて実施した。

2-1 標語募集事業方法および内容

令和5年7月15日（土）第8回おくすり教育推進協議会検討会（Web）	
	（一社）西武薬剤師会・（一社）日本くすり教育研究所 共同開催 参加者 45 名 【内容】基調講演：『これからの禁煙教育 ～電子タバコと加熱式タバコ～』 日本くすり教育研究所 代表理事 加藤哲太 トピックス：『米国における“オピオイドクライシス”からの警告』 湘南医療大学 薬学部 教授 船田正彦 一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 啓発事業について 日本くすり教育研究所 理事 福田早苗 （①説明用資料添付）
令和5年7月下旬から8月下旬	
	・各市の教育委員会へ事業の趣旨説明、及び協力依頼 ・各小中学校に告知ポスター・チラシ兼応募用紙を配布 ・募集事業の告知ポスターを掲示 （各校の校内、会員薬局店頭、保健所・市役所など公共施設など）（②ポスター）
令和5年9月上旬	
	各校にてチラシ兼応募用紙を児童生徒に配布 （③チラシ兼応募用紙）
令和5年9月29日（金）応募締め切り	
令和5年10月上旬 応募作品の回収	
	・10月中旬に各市において予備選考を行い、本選用の小学生の作品10点と中学生の作品10点を選出する。 ・第9回おくすり教育推進協議会に参加する方へ各市で選出された本選用のエントリー標語作品と投票用紙を配布し、協議会の受付にて投票することを案内。
令和5年11月11日（土）第9回おくすり教育推進協議会検討会（対面）（④写真）	
	（一社）西武薬剤師会・（一社）日本くすり教育研究所 共同開催 参加者 23 名 【内容】入場時に受付にて標語投票 小平市教育委員会教育長挨拶 小平市教育委員会 教育長 青木由美子 事例報告：『学校薬剤師が参画する「お薬教育（小学校編）」』 小平市立小平第十三小学校 学校薬剤師 中村幸世 小平市立小平第十四小学校 学校薬剤師 照沼知子 総評：日本くすり教育研究所 代表理事 加藤哲太 グループディスカッション：『どう取り組む？オーバードーズ問題』 取り組みへの提言 湘南医療大学 薬学部 教授 船田正彦 応募標語作品選考開票結果（中間報告） おくすり教育推進協議会 企画運営委員会委員 中田絵美子
令和5年12月23日（土）おくすり教育推進協議会企画運営委員会	
	・優秀作品の最終選考
令和6年2月～3月上旬	
	・入選作品を掲載したポスター（⑤-a・⑤-b 写真）、参加賞として作成したポスターと同デザインのクリアファイル（⑥写真）を各校に配布。 ・受賞者への賞状・副賞を在籍校へお届けし、各校ごとに表彰していただいた。
令和6年3月16日（土）第10回おくすり教育推進協議会検討会（Web）	
	（一社）西武薬剤師会・（一社）日本くすり教育研究所 共同開催 参加者 45 名 【内容】基調講演：『改正大麻取締法の概要と今後 ～大麻の取り扱いをどうするか？～』 湘南医療大学 薬学部 薬理学研究室 教授 船田正彦 トピックス：『オーバードーズにおける事例紹介と問題提起 ～くすり教育・薬物乱用防止教育において オーバードーズ問題をどう扱うか～』 日本くすり教育研究所 代表理事 加藤哲太 標語募集事業結果報告 日本くすり教育研究所 理事 福田早苗

2-2 小中学校における『おくすり教育』推進のための啓発事業

- ①教育委員会、及び各校の学校長への“標語募集事業”協力依頼の文書や事業最後の協力お礼の文書に、本会が『医薬品の適正使用』や『薬物乱用防止』などの学校における教育活動を推進しており、導入のご相談は随時受け付けている旨を記載した。(別紙3)
- ②標語の応募用紙に簡単なアンケートを付記し、服用薬を用意する際にどの程度保護者(大人)が関与しているのか実態調査をするとともに、医薬品の服用時には保護者が関わることの必要性を感じていただきたいと考え、実施した。(⑦アンケート及び集計)

3、啓発事業等成果

3-1 標語募集事業

- ①西武薬剤師会は前述のように、清瀬市・小平市・西東京市・東久留米市・東村山市で構成されているため各市の教育委員会へ事業参加の協力依頼は各市の『おくすり教育推進協議会』企画運営委員と学校薬剤師会会長の動向に委ねた。その結果、標語募集事業に市教育委員会としてご協力いただけたのは小平市・東久留米市・東村山市の3市、西東京市は薬局単位で参加、清瀬市は日程的に難しいとのことで参加を見送られた。

*参加作品数

		小平市	東久留米市	東村山市	西東京市	計
応募数	小学校	273	188	96	3	560
	中学校	76	812	8	0	896
	計	349	1000	104	3	1456

②入賞作品

最優秀賞 小学生の部 1作品

・“くすり”はね 正しく飲めば みんなの味方

中学生の部 1作品

・その薬 ルールを守って 健康に

優秀賞 小学生の部 5作品

・その薬 自分のためだよ あげちゃだめ

・しっかり食べて体を作るよ! でも困った時は力を貸してね お薬さん!!

・お薬は 数と回数しっかりかくにん! 体のために正しく飲もう!

・のみ合わせ 命を守る お薬手帳

・良薬も 使用ミスで 悪薬

中学生の部 5作品

・薬を飲み過ぎると「どく」に変化するので

一度に「たくさん」摂取しないようにしよう

- ・何のため？ 薬は病気を治すため！
- ・正しく服薬健康サポート
- ・身に付けよう 薬の知識 気を付けよう 飲みすぎ注意
- ・朝昼晩 正しい時間に服用しよう 頼りになる 僕のかかりつけ薬剤師

- ③入賞作品を掲載したポスターを各校(⑤-a 入選作品掲載ポスター(保健室前))、及び保健所・市役所などに配布し掲示を依頼した。
- ④医薬品の適正使用の啓発活動として、西武薬剤師会のホームページに掲載していただいたり、会員薬局にて入賞作品を掲載したポスターを掲示していただいたりした。
- ⑤参加賞として作成した入賞作品を掲載したポスターと同デザインのクリアファイルは、今後市民への医薬品適正使用の啓発活動の際に各市で活用予定。

3-2 小中学校における『おくすり教育』推進のための啓発事業

- ①教育委員会、及び各校の学校長への“標語募集事業”協力依頼の文書を目にされたことをきっかけに『薬物乱用防止教育(薬の適正使用やオーバードーズ問題なども組み込んで)』の依頼があり、中学校で講演を実施した。終了後の生徒の感想文において大変良い反応を得ることができ、担当教職員からも今後も連携していきたいとのご要望をいただいた。
- ②標語の応募用紙に併記して実施したアンケート調査によれば、処方薬においては小学生の13.5%、中学生の31.7%が“自分”で用意すると答え、“家にいる大人の人”と答えたのはそれぞれ84%、65.5%であった。また一般用医薬品においては“自分”で用意すると答えたのは小学生7%、中学生21%、“家にいる大人の人”と答えたのは小学生82%、中学生71.5%であった。おそらく“その他”を選んだ児童生徒はほとんど薬の服用経験がなく、一般用医薬品の項目において小中学生ともに“回答なし”というケースが見受けられたことは、この年代では体調不良の際は病院を受診し処方された薬以外には、薬を服用しないということではないかと推察する。

4、考察

この事業に取り組んだことで薬剤師側から各市の教育委員会に直接『薬』のことや『医薬品の適正使用』について学ぶことの必要性や重要性を伝えたり、『おくすり教育』導入へのアプローチをしたりする良いきっかけになったと思われる。そして事業を進める中で生じる様々な課題において密に連絡を取り、丁寧に対処していくことで教育委員会や事業にご協力いただいた小中学校の学校長をはじめとする教職員との信頼関係が構築できたことも大きな収穫であった。

結果として今回、教育委員会のご協力をいただけたのは5市のうち3市ではあったが、参加の同意は得られないまでも、地域で活動している学校薬剤師が標語募集事業の趣旨を説明しに

赴き、『医薬品の適正使用』のための教育を推進しているということを伝え、理解していただく機会を得たということも一つの成果である。特に昨年度はオーバードーズ問題がマスコミに大きく取り上げられたこともあり、『おくすり教育』の必要性や重要性を改めて感じていただけているのではないかと期待している。

また、応募用紙には『おうちの方と一緒に考えていただいてかまいません』と記載したことで小学校低学年の児童も参加しやすくなり、家庭で“医薬品の正しい使い方”について考えたり話し合ったりする機会を提供できたと思う。以上のことや、応募された標語作品などから推察すると、本事業は児童生徒のみならず教育委員会職員や学校教職員、そして保護者においても『薬』や『薬の適正使用』について、さらには『薬剤師の存在』やその『役割』について考えたり気づいたりする良い機会になったと考えられる。

一方、アンケート結果より中学生であっても半数以上が服用薬を用意するのは“家にいる大人の人”であり、一般用医薬品においてはその服用経験がない、あるいは服用機会が少ないと思われる生徒が8%近くいることが分かった。医薬品の使用経験が少なく健康な状態を維持できていることは大変喜ばしいことではあるが、利用する機会が少ないということは医薬品への関心が薄く誤った情報を鵜呑みにしてしまう可能性もあることが懸念される。

誰もが医薬品が必要と感じた時に、医薬品を正しく安全に活用するためには、医薬品への正しい理解とその適正使用への正しい知識や、薬局・ドラッグストアの利用方法、薬剤師の役割や付き合い方を啓発する教育が必要であることを一層強く感じた。

5、まとめ

ある教職員から、医薬品に対する教育を行っていない段階で『薬の正しい使い方』に関する標語募集を行うことに疑問を呈されたとの話題にのぼったが、この疑問こそ今回の活動の狙いであり、本会が推進している『おくすり教育』導入への糸口であると感じている。

また、国家の医療費削減政策の流れの中で、今後ますますセルフメディケーションが推進され、効果の高いスイッチ OTC 薬などの商品も増えてくるとされる。誰もが正しく安全に医薬品を有効利用し、安心してセルフメディケーションを実践していくためには義務教育の段階で実際に医療に携わる薬剤師が『おくすり教育』を行うことは『医薬品』や『医薬品の適正使用』の啓発のみならず、薬剤師を身近に感じ、健康や薬のことで困った時には薬剤師に相談しようという行動変容に繋がるのではないかと考える。

この度作成した入選作品を掲載したポスターは薬局等で掲示したり、同デザインで作成したクリアファイルは一般市民への街頭薬事相談会などの機会に配布したり、『医薬品の適正使用』の啓発グッズとして活用予定である。

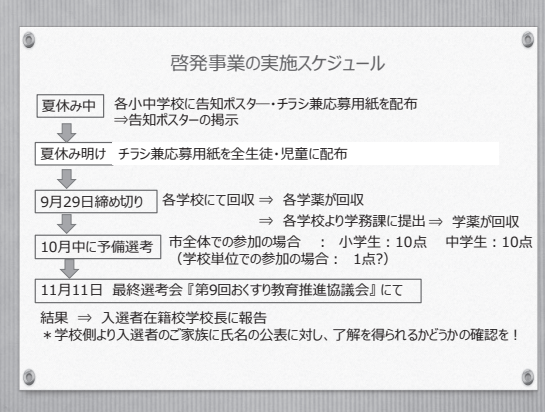
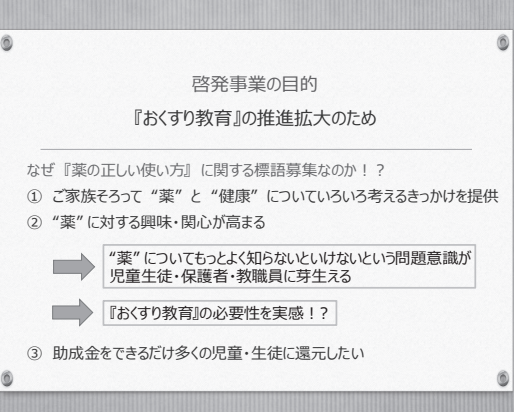
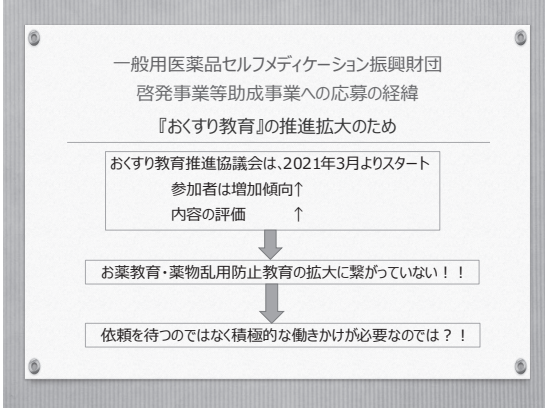
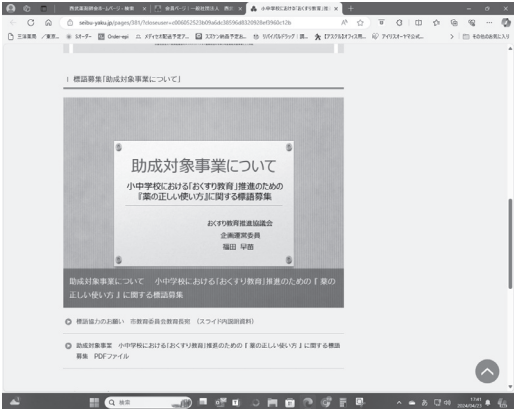
本活動中には間に合わなかったが、今回応募された標語を再検討し今後の『おくすり教育』の教材に反映させることでより児童生徒の関心事に寄り添った教育内容に改編できるのではない

かと期待している。

今回の活動を通してご応募いただいた小中学生やそのご家族、仲介をしてくださった教育委員会職員、学校長をはじめとする教職員の方々が、『薬』や『医薬品の適正使用』についての知識を習得する意義を理解し、本研究所やおくすり教育推進協議会が推進している『おくすり教育』に対する関心が高まり、その必要性や重要性への理解が深まって、薬剤師が行う『おくすり教育』の導入に繋がることを心より願うとともに、引き続き啓発活動を継続していくことが必要であると考えている。

6、資料、表、図及び写真など

①説明用パワーポイント資料（西武薬剤師会ホームページ上にも掲載）



啓発事業の実施方法

- 市薬剤師会として又は、市学校薬剤師会として
市内の全公立小中学校を対象に事業展開をする場合
 - 活動趣旨の説明
 - 活動スケジュールの説明
 - ご協力いただける内容について話し合い
 教育長・学務課・各校の学校長
- 学校単位での参加の場合
当該校の担当学校薬剤師が上記の件についての対応
学校長、および窓口になっていただける先生との良好な関係の構築に

標語募集 ポスター

- ・参加していただける学校に掲示
- ・市薬剤師会の協力が得られるなら、会員薬局に掲示
- ・市内の多くの学校で参加していただける場合は、市内の公共施設に掲示
- ・その他

今回の啓発事業を一つのきっかけとして とりあえず声掛けから…

セルフ Medikation
の時代

オーバードーズ問題

医薬品の乱用が
違法薬物乱用に

サプリメント
エナジードリンクとの
付き合い方

意図としない
ドーピングについて

タバコ・アルコール
などなど

『薬の正しい使い方』をきちんと学ぶことの必要性を感じてもらう
薬剤師が参画する『おくすり教育』に！

薬剤師が行う『教育活動』の目指す方向性

- ◆ 全小中学校での『教育活動』の実施と定着
- ◆ さらにステップアップした内容の
中学校における『教育活動』の実施と定着

学校薬剤師・
地域で活動する薬剤師とのかわり

医薬品の適正使用
に対する意識向上へ

薬剤師の職能への理解・親近感

**薬局がセルフ Medikationの基点に！
薬剤師がセルフ Medikationのキーマンに！**

薬が正しく安全に使われる社会に!!

②募集用ポスター（保健室前）



③チラシ兼応募募用紙

みんなで考えよう。 薬の正しい使い方

薬を正しく安全に使うための標語を募集します
(募集期間)

募集対象校 清瀬市、小平市、西東京市、東久留米市、東村山市の市立小中学校に在籍する児童生徒

募集対象 小・中学生 各4名
(賞金 5000円分の図書カード)

募集対象 小・中学生 各5名
(賞金 3000円分の図書カード)

募集締切 令和5年9月29日(金)

おくすり教育とは?
清瀬市、小平市、西東京市、東久留米市、東村山市の薬剤師で構成されており、日本くすり教育研究所代表理事の加藤雅夫先生、湘南医科大学教授の船田正彦先生のご協力をいただき、薬剤師が参画する『薬の正しい使い方』や『薬物乱用防止』を啓発する教育活動を推進している団体です。
(作り取り)

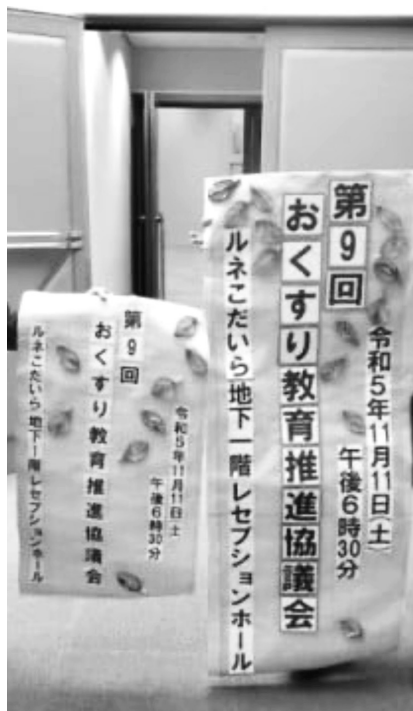
学校名: _____ 市立 _____ 学校 / 学年: _____ 年

氏名: _____

*** 応募作品 *** (おうちのみんなと一緒に考えていただいても構いません)

〆アンケートにご協力ください (当てはまるところを〇でかこんでください)
あなたが薬を習得した際にその薬の用途をするのはだれですか?
・ 薬師から処方された薬 (自分) ・ 薬にいたる人への薬 (その他)
・ 薬師・ドラッグストアで購入した薬 (自分) ・ 薬にいたる人への薬 (その他)

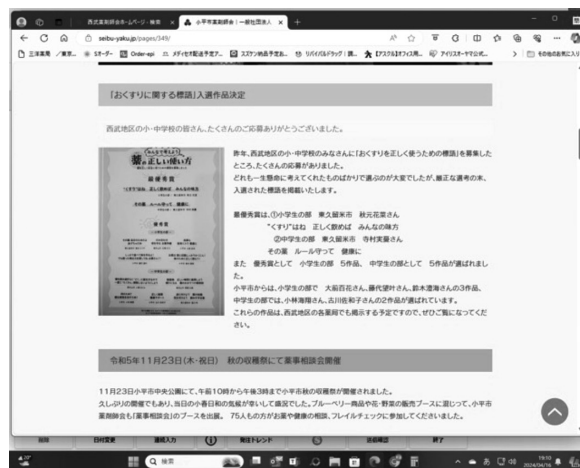
④第9回おくすり教育推進協議会検討会（対面）



⑤ -a 入選作品掲載ポスター（保健室前）



⑤ -b 入選作品掲載ポスター
（西武薬剤師会ホームページ上にも掲載）



⑥参加賞として作成したクリアファイル

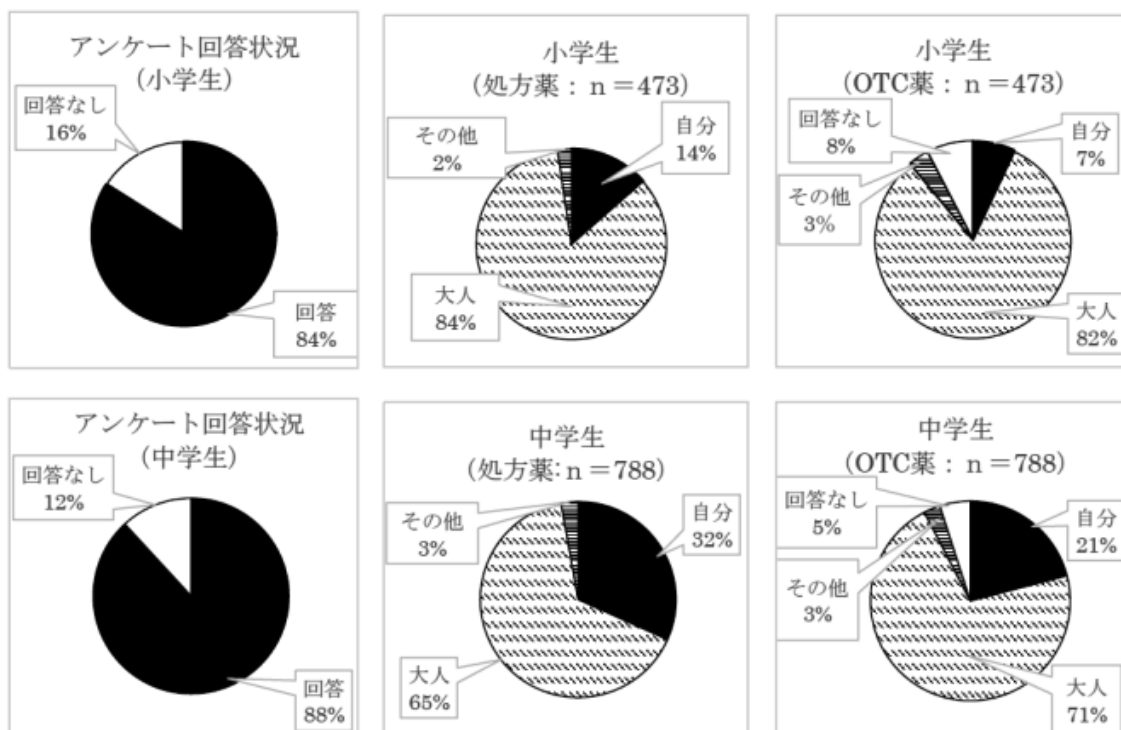


⑦応募用紙に付記して実施したアンケート及びその集計結果

《標語作品応募時に実施したアンケート》

◎アンケートにご協力ください（当てはまるところを○でかこんでください）
 あなたが薬が必要な時にその薬の用意をするのはだれですか？
 ・ 医師から処方された薬（自分・家にいる大人の人・その他）
 ・ 薬局・ドラッグストアで購入した薬（自分・家にいる大人の人・その他）

*アンケート集計結果



☆おくすり教育推進協議会 企画運営委員会委員

有識者 加藤哲太 日本くすり教育研究所代表理事

船田正彦 湘南医療大学 薬学部 教授

西武薬剤師会学校保健委員会委員

大槻 健人

米澤 裕二

白井 直美

城田 由起子

吉成 礼子

中田 絵美子

福田 早苗

西武薬剤師会学校保健会担当理事

西東京市

東久留米市

清瀬市（第9回おくすり教育推進協議会まで）

清瀬市（第10回おくすり教育推進協議会より）

東村山市

小平市・日本くすり教育研究所理事

(別紙 3)

平成 6 年 2 月 吉日

小平市立小中学校

学校長 殿

おくすり教育推進協議会
会長 加藤 哲太
企画運営委員 一同

謹啓

梅花の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

またこの度は、清瀬市、小平市、西東京市、東村山市、東久留米市で活動する有志の薬剤師と有識者としてご参加いただいている湘南医療大学教授の舩田正彦先生で構成する『おくすり教育推進協議会』と『日本くすり教育研究所』との協働で実施いたしました『薬の適正使用に関する“標語(キャッチコピー)”の募集』への多大なるお力添えに深く感謝申し上げます。

おかげさまで 5 市全体として小学生の部で 560 作品、中学生の部で 896 作品と多数のご応募をいただく事ができました。秀作ぞろいで選考は難航を極めましたが、厳正なる審査の結果下記の通り決定させていただきましたので報告いたします。

○『一般用医薬品セルフメディケーション振興財団』令和 5 年度助成対象事業

『薬の適正使用に関する“標語(キャッチコピー)”』最終選考結果報告

最優秀賞 (省略)

優秀賞 (省略)

今後も当会では『医薬品の適正使用』及び『薬物乱用防止』への活動を積極的に行っていく所存です。昨今問題となっているオーバードーズ問題や若年者の大麻の乱用問題などを含め『薬の正しい使い方教育(お薬教育)』や『薬物乱用防止教育』の取り組みについてのご相談は随時受け付けております。学校のご予定・ご要望に合わせ、コーディネート致しますので各校担当の学校薬剤師、もしくは下記のおくすり教育推進協議会連絡窓口にご遠慮なくご相談いただけますように宜しく願い申し上げます。

以上

***おくすり教育推進協議会連絡窓口**

『薬の正しい使い方教育(お薬教育)』や『薬物乱用防止教育』
に関するお問い合わせはこちらにお願いします。

おくすり教育推進協議会
小平市薬剤師会 副会長
福田早苗

mail - address : sanyoph.sanae@gmail.com

FAX : 042-462-5119